



学校だより 10月号



令和2年9月25日
横浜市立三ツ沢小学校

はきものを そろえると…

校長 重田 英明

中庭の柿の実が例年になく早く色づき、5年生が社会科の学習で育てている稲穂も少しずつ頭が垂れてきました。今年は猛暑が続いた暑い夏でしたが、秋の訪れをいたるところで実感する頃となりました。また、新型コロナウイルス感染拡大防止のために平日分散開催とさせていただいた今年の運動会ですが、校庭や体育館では運動会当日に向けて子どもたちが一生懸命に活動しており、私も楽しみにしております。

さて、私は日頃から本校の子どもたちに感心していることがいくつかあります。その一つに「はきものをくつ箱にきちんとそろえて入れている」ことがあげられます。どの校舎のどの昇降口のどのくつ箱を見ても、一人ひとりのはきものがきちんとそろえて入れられています。

長野県円福寺の住職である藤本幸邦さんの詩を紹介します（右下）。禅の修行寺の玄関には「脚下照顧（きゃっかしょうこ）」という札が立ててあるそうです「自分の足元を見よ」「自分の行いを見よ」という意味ですが、それを子どもにも分かるように、そしてそれがいつも行動として身につくようにと考えたのがこの詩なのだそうです

子どもたちは、登校後や休み時間の遊びから帰ってきたとき、自分が脱いだくつのかかとをきちんとそろえてくつ箱に入れています。自分のくつばかりでなく、友達のくつをそろえてくれている子も少なくありません。そして、心を落ち着かせた後、教室に向かうのです。すばらしいことだと私は思います。ご家庭ではいかがでしょうか。きっと学校と同じようにしているのではないかと思います。もし、「うちの子は、家では脱ぎっぱなし」という場合には、**はきものをそろえることの大切さ**について一声かけていただければと思います。



はきものをそろえると

心もそろう

心がそろうと

はきものもそろう

ぬぐとときにそろえておくと

はくときに心がみだれない

だれかがみだしておいたら

だまってそろえておいてあげよう

そうすればきっと世界中のひとの心も

そろうでしょう



このような子どもたちのすばらしい行いを、これからも本校のよさとして未来につなげていきたいと強く感じております。

保護者・地域の皆様には、引き続きご理解とご協力のほど、よろしくお願いたします。